



比布中央学校だより

自分大切に 怖がらず行動を

校長 三浦 秀也

やはり降りましたね。「開校記念日・勤労感謝の日」がこの辺りの根雪の平年ですからね。本格的な積雪シーズンを迎えました。子どもたちには寒さや雪と上手く付き合い、楽しむ感覚も忘れないでほしいと思います。今年はインフルエンザやプール熱が猛威を振っています。近隣市町では学級・学年閉鎖、学校閉鎖をしていると聞きます。油断はできません。引き続き健康管理に心がけたいものです。いよいよ師走です。9年生にとっては、自分自身を「飛躍」させるための重要な期間に入ります。入学者選抜も控えています。それぞれの努力が結果に結びつくことを心から願っています。

メディアの多様化が進み新聞の発行部数は年々減少し、新聞を取っている世帯は、北海道は1世帯当たり0.57部（日刊紙）なんですね。「図工で新聞を使うので、家から持ってきて」と子どもたちに頼んでも、無理な話なのです。道新はこの10月から夕刊が休刊になりました。今や紙ではなく電子版の時代ですものね。

2020年9月3日（木）の北海道新聞朝刊に掲載された、作家で僧侶の瀬戸内寂聴氏のインタビューを「自分大切に 怖がらず行動」を紹介します。寂聴さんは翌21年の11月に99歳でお亡くなりになりました。心に響くエッセイです。

私の中学時代は今でいう中高一貫校で、当時は高等女学校と呼ばれていました。入試の成績は1番で母が大喜びしました。戦争に行く兵隊さんの無事を祈り、校門で白い布に一針ずつ赤い縫い目を結んで登校した時代。「千人針」といいます。学校は厳しく、まじめに勉強する優等生で、つまらなかった。悪いことはできないし。お昼は日の丸弁当。白いご飯の真ん中に梅干しが一つだけ。「兵隊さんのことを思って我慢しろ」と。

戦争のために体力づくりで運動部に入れられた。やりたくないけど陸上部で夕暮れまで走ったり跳んだりしました。格好はいいんです。記録は悪いから万年補欠。それはとてもいい経験でした。そんなことは一生のうちにそうない。役に立たないことを毎日するなんて中学生ぐらい。体の基礎ができました。

女子校で男女交際は禁止。女の子からのラブレターを下駄箱にたくさんもらいました。友達は多かった。当時の仲間は一生の友達で今もつき合っています。最後に残るのは肉親より友だち。親友がいると人生が豊かです。本を数多く読んで作文が得意でした。作家になろうと小説を書いていた。読書は大事です。お金が無くても図書館に本がある。片っ端から読むと好きな本が分かる。それで好きなこと、やりたいことを見つけるといい。

私は大勢の人から相談を受けます。若い人が「自分なんか」とよく言う。この言葉は大きらい。それを聞くと私はすごく怒ります。「自分が自分大切にしないで、誰が大切にするか」って。自分にはいろんな可能性がある。他人にない良さがある。それを誇りにして大切にしなさい、って。

将来、何をしたらいいか分からない人もいる。自分の中に「どうしてもこれをしたい」ということがあるはず。それを早く見つけること。数学は嫌いだけど、絵を描くのは好きとか。好きなことが才能なんです。「道徳」では「人の迷惑にならないように」と教わる。いじめはいけない。殺してはいけない。自殺も殺人ですよ。もってのほか。戦争はだめ。「絶対に死んではいけない」と強く言いたい。いじめが一番嫌ですね。いじめめる人が強いわけじゃない。本当は弱いけど、強そうにして弱い者をいじめめる。本当に強い人がかばうしかない。

絶望して「もうだめ」と思ったら、裸になって鏡を見たらどうでしょう。色白だとか、おへそがかわいいとか優れたところを見つけて自信を持つ。嫌なことは永遠に続かない。急に変わることである。すべてのことは移り変わります。失敗しても、やり直せばいい。私はやりたいことをやってきました。何かをやった失敗した後悔よりも何もしなかった後悔の方が情けない。でも、失敗しても他人のせいにはしない。全部自分が責任を持って、やり直すこと。

「若き日にバラを摘め」というイギリスの詩人の言葉をあなたたちに贈ります。バラは棘があるからそれを摘むと指が傷つく。でも、若い時の傷はなめればすぐ直る。心の傷も必ず治る。怖がらずに行動しよう。

「青春は恋と革命」が私の信条です。本は大事だけど、100冊読むより本気の恋愛を一つした方がずっと成長する。人を愛することは幸せです。一生懸命生きてると、どうも世の中がおかしいと思うことに気づきます。それを直そうと思うのが革命です。変だと思えるのが革命です。変でないようにするために戦うんです。

小学生は親に従うだけだけど、中学生は自分で考えなきゃいけない。自分を発見し、自分の意見を持つ。

「みんなはこう言うけど、私はこう思う」とか。他の人と同じでなくていい。

やってみなくちゃ分からない。やってみてだめならやめればいい。何度でも変われるのが中学生。若さを大事にしてください。失敗してもやり直しがきくのが若さですよ。

合唱コンクール開催

11月1日(水)に合唱コンクールが行われました。昨年度までは、映像での交流にとどまっていたのですが、今年度は4年ぶりに体育館に集まり実施することができました。そして、参加学年を6年生以上として行い、義務教育学校ならではの行事として実施しました。久しぶりに子どもたちの素晴らしい歌声が体育館に響き渡りました。

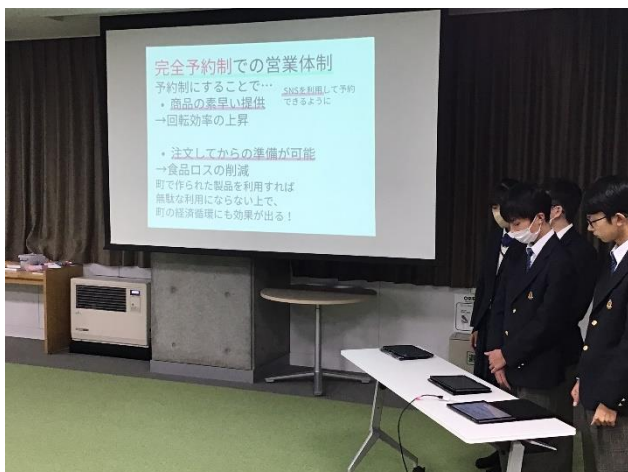
審査員には、村中町長様、北川教育長様、合唱ワークショップでお世話になった川島様、三浦校長の4名にお願いし、審査していただきました。また、多くの保護者の方々にも見ていただくことができました。

どの学年も、その学年に応じた素晴らしい歌声を聞かせてくれましたが、審査の結果、9年生が最優秀賞に輝きました。



比布活性化プロジェクト

11月6日(月)に「比布活性化プロジェクト」が行われました。これは、9年生が自分たちのふるさとである比布を活性化するため、義務教育9年間で学んだことをいかして、活性化の方法について町長へプレゼンテーションするというものです。できるだけ具体的な方法を考えながら提案するなど、どのグループも立派に発表することができていました。



公開研究会がありました

11月2日（木）に公開研究会を実施しました。今年度も、昨年度に引き続き道徳の研修をしています。義務教育9年間を通して「えらぶ子 きめる子 やりぬく子」を育てようという目標を設定して取り組んでいます。この取組は、先生方で研修を重ねてきた成果と課題を確認する大切な取組となっています。

今年度も全職員で何度も研修を重ね、4年生支援学級（工藤倫教諭）、6年生（山崎教諭）、9年生（柴田主幹教諭）で道徳の授業公開を実施しました。6年生については、8年生担任の山崎先生が授業を行い、義務教育学校ならではの取組もできました。

本校の研修は、前期課程・後期課程に関わらず、全ての子どもを全教職員で育ていくという意識のもとで行われています。義務教育終了時の子どもの姿を意識した熱心な話し合いをすることができました。



後期課程生活体験

10月31日(火)に、6年生が後期課程の生活体験を行いました。後期課程の授業を見学したり、実際に後期課程の先生の授業を受けたりする中で、後期課程の生活について理解を深めることができました。また、午後には、生徒会主催の集会への参加や部活動体験も行われました。

子どもたちの感想では、不安だったことが解決し後期課程への進級が楽しみになった、不安が楽しみに変わったなどの意見があり、後期課程での学校生活に意欲をもつことができる体験となったようです。



12月

- 1日(金) 9年生第7回学力テスト
交通安全街頭指導
- 4日(月) 職員会議(前期)
- 6日(水) 前期集会
- 7日(木) いじめ防止集会(後期)
- 8日(金) クラブ(前期)
- 12日(火) 職員会議(後期)

- 13日(水) 上級学校体験報告会(7年)
- 15日(金) クラブ(前期)
大掃除週間(~22日)
心に響く道徳講話(後期)
- 19日(火) 貯金日(前期)
- 20日(水) スクールカウンセラー来校
学校運営協議会
- 21日(木) 後期集会
- 22日(金) 2学期終業式(給食あり)
貯金日(後期)
- 23日(土) 冬季休業(~1/16)
- 29日(金) 学校閉庁日(~1/3)